

2020年6月24日

日本国総理大臣  
安倍晋三 様

よくご存じのように、この8月で、米国が世界で初めて核兵器を使用し広島・長崎の両都市を壊滅させ25万人以上の命を奪ってから、75年を迎えます。広島の被爆者の一人として、また、2017年にノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）で活動する者として、この手紙を書いております。被爆75年にあたり、私は世界すべての国の元首また政府の長に対して核兵器禁止条約に批准することを求める手紙を書いてきました。そして当然、唯一の戦争被爆国である日本に対しても、同じことを求めます。

昨年10月天皇陛下の即位の礼のために私が東京を訪ねた際、総理はご多忙ゆえに直接にお目にかかることがかなわなかったのは残念でした。今後、お目にかかって、核兵器廃絶のために日本に求められるリーダーシップについて話し合う機会があることを期待しています。核兵器という放射線の暴力が何をもたらすかを詳細に知る者として、そのような話し合いをさせていただきたいと思えます。

私は13歳の女生徒として、一発の原爆によってわが街広島が閃光を浴び、台風のような爆風で破壊され、摂氏4,000度の熱線であられ、放射線で汚染されるのを目撃しました。夏の明るい朝は、キノコ雲のなか漂う煙とほこりによる暗がりへと一変しました。死傷者たちが地面を覆い、傷ついた者たちは水をくださいと強く懇願しながら、医療の手当を何ら受けられないままにいました。広がる火災旋風が街を覆い、焼かれる肉の悪臭がそこら中に漂っていました。

爆心地から約1.8キロで倒壊した建物の瓦礫のなかから、私は奇跡的に助け出されました。同じ部屋にいた私の同級生のほとんどは、生きたまま焼かれていきました。今でも私の耳には、彼らがお母さんや神様に助けを求めている声が聞こえてきます。生き残った2人の少女と共に逃げていく際、私たちは、幽霊のような姿がゆっくりと、市の中心から次々に足を引きずって行進してくるのを見ました。それはおそろしく傷ついた人々で、爆風により衣服は破け、裸になっている人もいました。彼らは血を流し、火傷を負い、黒焦げになり、腫れ上がっていました。体の一部がない人、肉や皮が骨から垂れ下がっている人、飛び出た眼球を手で持っている人や、腹部が破裂し腸が飛び出ている人もいました。

その後、週、月、年を追うごとに、さらに数千人の人たちが命を失いましたが、その多くは、放射線の遅発性の影響により突然に不可解な形で亡くなっていきました。今日でもまだ、放射線は、生存した者たちの命を奪っています。亡くなった一人ひとりに名前がありました。みな誰かに愛されていました。

灰の中から生き残った私たちは、自らの生存と暮らしの立て直しのために戦ってきました。そのなかで私たち被爆者は、原爆によるこのように非人道的、非道徳的で残酷な私たちの体験を他の誰一人にもくり返させてはならず、核の危険という現実を世界に警告し核兵器が絶対悪であることを人々に理解してもらうことこそ自らの使命であると確信したのです。核兵器をそれが偶発的にであれ意図的にであれ再び使われるより前に廃絶することこそ、私たちにとっての道徳的な要請です。その確信と共に、私たちは核兵器の完全廃絶を70

年以上にわたって世界中に訴えてきました。

安倍総理、核戦争の業火を経験した唯一の国の指導者として、核兵器廃絶に向けて真の一步を踏み出してください。

原爆被爆者たちは、日本政府が核兵器禁止条約の交渉に参加せず、同条約に署名・批准することを拒んでいることについて、たいへん当惑しています。核兵器廃絶を70年以上にわたり訴えてきた被爆者の一人として、個人として裏切られた気持ちです。日本が、自国の安全のためには核兵器による保護が必要であると恥ずかしげもなく公言し続けることは、核兵器廃絶のために行われているあらゆる努力を台無しにするものです。私たちは、このような状況が続くことを看過できません。

日本政府は核軍縮のための「橋渡し」になると言っていますが、核兵器禁止条約の価値を是認せず、むしろ核保有国の立場を代弁する姿勢をみせています。悲劇的にも、日本政府は核保有国の共犯者になってしまっています。それは、日本の世論に公然と背くものであるばかりか、国際社会における日本の信用を失わせる可能性さえあります。日本は、自らの歴史的、世界的、道徳的責任を自覚し、核兵器に依存した政策と決別しなければなりません。日本は、核兵器がもたらす破滅的な危害をふまえ、緊急の事項として核兵器の廃絶を確約しなければなりません。

安倍総理、被爆75年にあたりあなたが、これまでの政策を転換して核兵器禁止条約への署名・批准に向かって取り組むと宣言すれば、それはあなたが遺した最大のレガシーとして日本と世界の歴史に刻まれることでしょう。

広島・長崎への原爆投下の犠牲者と生存者を代表し、また、世界中の核実験によって被害を受けてきた先住民族をはじめとする人々を代表して、総理が有意義で効果的な行動をとらえることを強く求めます。

敬具

サーロー節子  
(署名)

核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)

(以上は日本語訳。原文は英語で、日本政府には英語原文のみ送付)